

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	15-031	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Energy drink consumption and later alcohol use among early adolescents. 小児における栄養ドリンクの摂取とその後のアルコール摂取との関連		
執筆者		
Miyake ER, Marmorstein NR.		
掲載誌		
Addict Behav. 2015 Apr;43:60-5. doi: 10.1016/j.addbeh.2014.12.009.		
キーワード		PMID
アルコール、カフェイン、栄養ドリンク		25576951
要 旨		
<p>目的： 発達期における栄養ドリンクの消費が増加傾向にある。本研究では、小児の栄養ドリンク摂取とその後のアルコール摂取との関連を明らかにする。</p> <p>方法： 米国の Camden Youth Development Study に参加した 144 名の小児を対象とし、自記式問診票で 16 ヶ月間あけて 2 回調査を実施した。栄養ドリンク、コーヒー、ソーダ、アルコールの摂取頻度、衝動行動傾向尺度 (UPPS-P-Child version 使用)、親による管理の尺度 (PPMS 改良版使用) 等を調査した。</p> <p>結果： 1 回目調査時の栄養ドリンクの摂取頻度と、アルコールの摂取頻度に有意な正の相関がみられた。コーヒー、ソーダとアルコールとの関連はみとめなかった。1 回目調査時の栄養ドリンク摂取頻度は、16 ヶ月後 (2 回目調査時) のアルコール摂取頻度と有意な正の相関を示した。この関連は親による管理の尺度で調整すると減弱した。1 回目調査時の衝動行動傾向尺度は、2 回目調査時のアルコール摂取頻度と有意な関連をみとめなかった。</p> <p>結論： 小児において栄養ドリンクの摂取頻度が高いほど、その後のアルコール摂取頻度が高値であり、その規定要因として、本人の衝動行動傾向より、親の管理が行き届いていないことが強く影響している可能性が示唆された。</p>		